

## 「福井の教育」向上に関する意見交換

## ◆ 教育関係者との意見交換会

平成 26 年 12 月 26 日（金）（小中学校教員等約 100 名参加）

## ◆ 地区別意見交換会（95 名参加）

平成 27 年 1 月 7 日（水）

奥越地区（PTA 関係者 6 名、社会教育委員 4 名、公民館関係 4 名等 23 名参加）

平成 27 年 1 月 9 日（金）

丹南地区（PTA 関係者 9 名、公民館関係 5 名、商工会議所 1 名等合計 19 名参加）

平成 27 年 1 月 10 日（土）

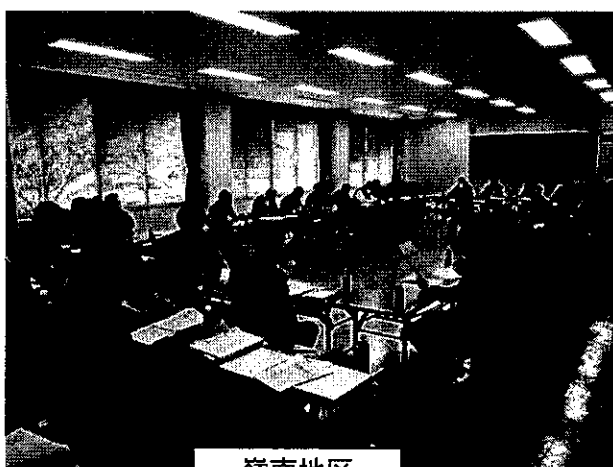
嶺南地区（PTA 関係者 10 名、公民館関係 3 名、商工会 2 名等合計 25 名参加）

平成 27 年 1 月 14 日（水）

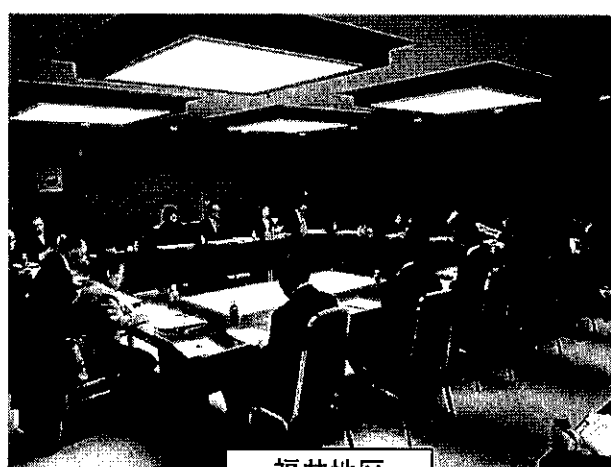
福井地区（PTA 関係者 4 名、公民館関係 3 名、商工会議所 3 名等合計 15 名参加）

平成 27 年 1 月 16 日（金）

坂井地区（PTA 関係者 7 名、商工会関係 2 名、公民館関係 1 名等合計 13 名参加）



嶺南地区



福井地区



# 「福井の教育」向上に関する教育関係者との意見交換会 結果概要

日 時：平成 26 年 12 月 26 日（金）13 時 10 分～14 時 30 分

場 所：県庁地下 1 階正庁

出席者：小中学校教員等約 100 名参加

## ◆ 主な意見

### <小・中学校教員からの意見>

#### ○ 教員の授業力向上

- ・教員の世代交代に備え、こういった形で校内研修を進めるか。ベテラン教員の技術等を若手教員に伝承していくことを考える必要
- ・県内一律で進めることと学校独自で行うことの両輪が必要である。ベテラン教員から若手教員に課題などを伝えて一丸となってやることが重要
- ・思考力や判断力、表現力に対応するためには中学校だけでなく小学校からの授業の組み立てを見直す必要
- ・教育研究会としても組織改革を進め、若手の育成にウェイトを置いていく必要
- ・中学校は受験を避けて通れないし、部活動の占めるウェイトも大きい。
- ・中学校の教員が多忙化しており、新採用教員が小学校や県立学校への希望を出すことが多い。魅力ある職場にしていけないといけない。
- ・福井の教育の更なる向上を図るのであれば、現場への十分な人材・予算の配分をお願いしたい。

#### ○ いじめ等への対応

- ・いじめ基本方針に沿って未然防止、早期発見に努めたい。不登校の原因としては、学力不振もあるし、保護者が登校を促さないこともある。

#### ○ 特別支援教育

- ・普通学級にも特別な支援が必要な生徒が増えており、個別に対応するためには人員の問題がある。

#### ○ 保護者対応等

- ・学校の教員が一生懸命やっているのに、それが保護者に伝わらない場合は、指導方法を変える必要がある。
- ・学校への過度な要望やちょっとしたことで責められたり、特に経験の少ない教員

は委縮することがある。

- ・福井の学校は授業だけでなく学校行事も含めてすべてに一生懸命である。高校入試にない4教科をしっかりと学んでいる学校は大丈夫な学校と認識している。
- ・0歳児からの包括的な幼児教育を真剣に考える必要がある。育児疲れに悩む親もいるし、子育てマイスター制度など、子育てのための全体的な枠組みが必要ではないか。

#### <高校教員からの意見>

- ・いじめや不登校への早めの対応を考えており、全校登校日などを使って学校生活に慣れるよう努めている。
- ・中学校と高校との教員の異動も行っているが、生徒にも高校を見る機会を作りたいし、授業内容でも中学校から高校まで系統立てて進めていきたい。
- ・高校生の読書量が少ない。新聞の活用なども含め、中高一体となった指導ができるようにしたい。

#### <PTA 関係者からの意見>

- ・自分たちの子どもの安全・安心のためにも学校の魅力を高めたい。そのためにも保護者の力を高める必要がある。ただ、我々が情報を発信しても目を通してくれるのは元々意識の高い方だけという現状もある。
- ・本当に話をしたい方はPTA活動には参加してくれない傾向がある。どのように話を届けるかを考えないといけない。
- ・全国学力調査の結果でも、予習が足りないという傾向があるが、高校や大学で育つような人材を意識することが大切である。
- ・教員の方々の努力を親が理解して協力しないと無になる部分もあるし、PTAでもそれを伝えられるようにしたい。
- ・学校再編により通学距離があまりに遠くなると保護者にも子どもにも負担がかかる。将来の子どもたちのことを念頭に検討してもらいたい。
- ・Uターン者の雇用を優遇するなど経済界も含めて人口減少に歯止めをかける施策を考えてもらいたい。

# 「福井の教育」向上に関する地区別意見交換会

## 奥越地区 概要

日 時：平成 27 年 1 月 7 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分

場 所：大野有終会館 302 号室

出席者：PTA 関係者 6 名、社会教育委員 4 名、公民館関係 4 名等 合計 23 名参加

### ◆ 主な意見

#### <幼児教育>

- ・ 保育所や幼稚園では読み聞かせをしているが、家庭でもやるのが大事である。
- ・ 児童館では遊びを取り入れて本を読んでおり、もう少し、子どもが興味を持つような方法を取り入れてはどうか。

#### <小・中学校教育>

- ・ 学校教育ではある程度の集団が望ましい。集団活動の必要性を PR してもらいたい。
- ・ 高志中学校は高校生と接する機会があり、いいと思う。
- ・ 小学校でいろいろなことを経験する機会は増えたと思う。ただ、忍耐力ややる気、我慢強さに影響が出ている。能力は高くなったかもしれないが、嫌なことでも頑張る、という姿勢に欠ける。やりたいことを見つける力も大切である。
- ・ 道徳は人として正しい道を考える心の問題であり、真剣に考えなければならない。ある意味では英語よりも大事なこと。土曜授業などと絡めて考えて欲しい。
- ・ 上中中学校が土曜授業推進地域として指定されているが、全県的に考えてもいいのではないか。
- ・ 小学校の英語教科化で子どもの余裕はさらになくなる。

#### <高校教育>

- ・ 進学中心の学科と就職中心の学科が同じ学校にあれば、進路選択が柔軟になる。

#### <読書活動>

- ・ 学校図書館の本の充実を図って欲しい。
- ・ 移動図書館で一度に数十冊がきても扱いが難しい。もう少しピンポイントにニーズを取り入れた本を準備してはどうか。
- ・ 地域の公民館に来るとしても遠くの子どもは親が連れてくる必要があり、司書が学校を回るなど、本に対する面白さを伝え、本が身近にある環境をつくってほしい。
- ・ 教員が図書館に常駐できるわけではない。司書などの人員配置も必要だし、他の図書館との連携利用など、たくさんの方が利用するようなコマースも考えて欲しい。
- ・ 子どもによっては新聞なども熟読しており、習慣的に活字に触れさせることが大事である。

## <ふるさと教育>

- ・各論だけでなく、学校教育を通じてどんな大人になってほしいかという総論を整理してはどうか。優秀な人材の流出は社会全体の問題であるが、例えば「地域を愛する」など、将来像を大切にしてもらいたい。子どものあるべき姿を示すことは大事である。
- ・一番の基本理念は教育施策として何をやればふるさとに貢献できるかということ。いろいろなことに手を出しすぎると、結局何を目的としているかが見えにくくなるので、県が何を指すのかというスローガンを明らかにしてほしい。
- ・ふるさと教育として地区の宝物を探している。たくさん出てきているので、電子化して共有を進めているが、高齢者から子ども達に伝える時間がない。早くしないと伝承が途絶えてしまう。
- ・時間がないし、資金面での援助も欲しい。県の施策として若狭地区との情報交換や交流につなげてもらえると助かる。
- ・小学校区内で遺跡の発掘や紅葉づくりなど子どもにいいところを知ってもらうことも大事である。子どもと大人が触れ合う機会を持つと、子どももいきいきと話をしてコミュニケーションが取れる。
- ・勝山では左義長祭りに愛着を持って、祭りの時期に都会から戻ってくる人もいる。教育だけでは解決できないが、Uターンにつながるよう産業界でも受け皿が必要である。
- ・祭りの由来など、子どもと親に地域を知ってもらうことが大事である。
- ・総合学習の時間に地域教育を取り入れたり、中学校では神輿をかついだり、踊りを学んだりしている。
- ・都会と地方では収入の差もあるし、子どもを福井に帰らせられないという親もいる。必ずしも就職先が不足しているから福井に帰ってこないという問題ではない。

## <人材の活用>

- ・親に余裕がない。定年後の人間が一番余裕があるので、放課後活動に高齢者の知見を活かしてはどうか。
- ・高齢者の知見を活かすには、人材バンクの利用率なども検証してはどうか。

## <教員の多忙解消>

- ・地域教育を教員に提案しても、授業のカリキュラム消化に追われている。学力テストでいい点を取るのもいいが、地域に出向く自由な時間がない。

## <社会教育>

- ・社会教育に対する施策が少ない。青年団や壮年団も地域には重要である。
- ・コミュニティは崩壊寸前であり、子どもの学力も重要だが、地域に目を向けさせる教育が必要である。
- ・公民館と小学校で連携して小学生向けのイベント等を行っているが、対象が限られている。学校によっては参加しない学年が生じてつながりが途切れてしまう。

# 「福井の教育」向上に関する地区別意見交換会

## 丹南地区 概要

- 1 日 時：平成 27 年 1 月 9 日（金）19 時 00 分～20 時 30 分
- 2 場 所：サンドーム福井 104 研修室
- 3 出席者：PTA 関係者 9 名、公民館関係 5 名、商工会議所 1 名等 合計 19 名参加

### ◆ 主な意見

#### <幼児教育・家庭教育>

- ・認定こども園ができていますが、どうしても預かり時間の長い保育が重視される。
- ・もう少し保育士が幼児を教育できるゆとりや環境を整えてもらいたい。幼稚園の方が子どもをしつけられている。保育と教育のバランスを考えることが必要ではないか。
- ・親ももっと勉強する必要がある。子育ての方法が分からない親が増えているし、しつけを学校に求める親もいる。
- ・家庭の教育力向上を促すことが大事であるし、親への教育を意識してもらいたい。
- ・勉強会をしても、参加してくれない人にどのように情報を届けたらいいのか。そこにさえ出席しない人への親育、親学が必要である。
- ・スマホ対策でも使い方について親が姿勢を示すことが第一である。

#### <小・中学校教育>

- ・学力は高いが人間性、きずなが伝わっていない。外で遊ぶ機会も減っており、教えることだけでなく、育てることにも着目する必要があるのではないか。
- ・育てる部分が弱い。子どもを叱れる人が少ないが、叱られたことが後になってありがたかったと思うこともある。
- ・大人になって本当に成長したと思えるかどうかという視点が必要である。
- ・英語の教育は、小学校段階では早い。国語、日本語をきちんと使えるようになってからという考え方もある。
- ・予習しないということは、言われたとおりのことしかしないということ。教科書どおりではない解き方も認めるなど、自由な発想を伸ばして欲しい。
- ・子ども達の少し尖ったところも大事にして欲しい。

#### <生活指導>

- ・各地域で同じ方向を向いたスマホ対策が必要である。使用を制限したとしても、いずれ使うものであり、使い方のアドバイスをお願いしたい。
- ・いくらスマホの利用指針を示しても、関心がないと守られない。実際に身近にいる親がチェックするよう、親に対する意識付けが重要である。

- ・スマホもただ制限するだけでなく、予習などで前向きに活用するような使い方を考えてもいいのではないか。
- ・睡眠は食育より大事ではないか。子どもの睡眠にも危機感を持って欲しい。

### <キャリア教育>

- ・地域の事業所数も減っている。ものづくり博覧会などで地元の産業を中学生に見せる場はあるが、高校生はなかなか来てくれない。
- ・地元に残る先輩が仕事を教える講座のようなものがあるといいのではないか。医療や建設分野など。地元に残るインセンティブにもつながる。
- ・以前、大臣経験者による講演では子どもも興味を示していた。県外で活躍している人を呼んで話を聞くと、将来に役に立つのではないか。

### <スポーツ振興>

- ・国体に向けての選手強化に期待しているし、県民一人ひとりの運動習慣を高めることも大事である。主会場となる種目は決まっているが、県民総参加の種目もあり、盛り上がり方が更に大きくなるよう準備を進めてもらいたい。
- ・子どもの勉強とスポーツの時間配分について、計画ではもう少し整理してもらいたい。
- ・総合型スポーツクラブにも立ち上げ時だけでなく、継続的な補助金を期待したい。

### <社会教育>

- ・公民館活動に対する県の姿勢をもう少し示してもらいたい。国体準備などでも協力を求められると思うし、博物館、図書館、文化施設なども含め、社会教育をもう少しクローズアップしてもらいたい。
- ・社会教育を実践しているが、内容が薄くなっている。学校教育の後は生涯教育として社会教育が重要になるのではないか。
- ・青年団活動に県としての受け皿ができていない。どうしていいか分からないところもあり、計画の中できっかけを作ることが期待したい。20代の加入者が必要である。
- ・幼児教育で指導者が来ても参加する母親がいないこともある。青年団活動に参加する若者も自分からは集まらないし、参加者を広げる地道な活動が大事である。
- ・ほめることも重要であり、生きる力につながる育成をお願いしたい。家庭や学校から社会教育にウェイトを移すことも考えて欲しい。
- ・地域の中で大人や異年齢の人と関わる事も大事であるし、地域に誇りを持たせて、ふるさとを残していくのは親の責任である。
- ・公民館で放課後子ども教室を行っていることも多い。子どもが中において地域が関わる接着剤になっている。



# 「福井の教育」向上に関する地区別意見交換会

## 嶺南地区 概要

日 時：平成 27 年 1 月 10 日（土）10 時 00 分～11 時 30 分

場 所：嶺南教育事務所 大研修室

出席者：PTA 関係者 10 名、公民館関係 3 名、商工会 2 名等 合計 25 名参加

### ◆ 主な意見

#### <幼児教育>

- ・自由保育により中学校になってから考える力が伸びたという話もある。自由保育に対する県の考えが必要ではないか。
- ・家庭教育は非常に大事だが、保育所や幼稚園に預けると親が任せきりになってしまうこともある。保育士の話をお親に受け止めてもらえない。
- ・研修会などを行っても、本当に来てもらいたい親が来てくれない。道徳、芸術、スポーツも含めて、親になる前の人間力育成が重要ではないか。
- ・保護者向けの啓発的な取り組みをハード・ソフト両面から万遍なく行って欲しい。

#### <小・中学校教育>

- ・将来にわたり子どもが幸せになる教育には、何が一番大事なのかを念頭に置いて、学力テストの結果に捉われないようにすることが必要である。
- ・山遊びなど、本来、教育は子ども達が遊びながら行うもの。原点を見直してほしい。
- ・福井県の学力調査は例年全国トップレベルだが、嶺南の状況はどうか。
- ・思考力や判断力、表現力が不足しているのではないか。それを伸ばすための教育のやり方、方法をどう考えていくのか。
- ・自分で工夫できない子は学校へ行くのがきつい。休み時間も余裕がなく、やらされている感覚になる。自由に発散できる場所がないのではないか。
- ・高志中高は進学実績を伸ばすためにつくったと思うが、嶺南には中高一貫校はない。
- ・中学校で授業についていけないことが不登校の要因になっているのではないか。
- ・小中連携、中高連携もいいが、小学校同士の連携でクラブ活動を行うなど、同じ校種の連携も考えてもらいたい。

#### <特別支援教育>

- ・数字にとらわれずに現場の底上げが必要である。学習についていけない子や障害を持つ子への手当てを意識してもらいたい。
- ・35 人学級に教員を 2 人置いてもいいし、熱意を持って取り組んでももらいたい。
- ・特別支援については、低学年のうちは変わらなくとも、学年が上がるとできることに

差が出てくる。一人ひとりに支援員を配置できないか。

- ・中学校や高校で特別支援学校を選ぶ人が多いのは、社会・生活体験が充実していて、実際に役に立つからではないか。
- ・インクルーシブ教育を進めているが、複数の生徒を1人の教員で対応することは難しい。支援員の配置などを考えてもらいたい。児童生徒数の減少により、必然的に少人数教育は進んでいるが、必要なところに配置されていない。
- ・障害は一人ひとり違うので、長い目で見て成長するよう時間をかけて障害を理解してもらいたい。

### <生活指導>

- ・美浜町の眠育がテレビで特集されていた。睡眠は子どもの成長に関係してくるし、記録を取ってチェックしていた。大事なのは家庭である。
- ・小学校高学年から中学生にかけて、PCやスマホを使うようになり、どんどん睡眠時間が減る要素が出てくる。今年から全小中学校で記録を取り、就学時健康診断で睡眠についての講演会を行っている。
- ・眠育や食育などいろいろ言われているが、何が正しいのか見えにくい。小さいころからのしつけ、時間の管理などが大事なのではないか。
- ・県の権限でスマホ利用を制限することはできないか。親によって温度差もあるし、大きな力で徹底させてはどうか。

### <ふるさと教育>

- ・たとえ優秀な成績でも県外に出てしまったら損失である。地元の歴史をしっかりと教えて、誇りを持って地元に戻ってきたい人を育てる必要がある。

### <地域との連携>

- ・土曜授業にはスポーツ少年団の活動に支障が出たり、教員の負担もあったりするが、家庭の参加が見込め、地域と家庭、学校の連携が密になるというメリットがある。

### <スポーツ振興>

- ・スポーツについては、年齢が上がると自由に集まれる環境が減ってしまう。

### <教員の指導力向上>

- ・きたえる教育という言葉はいいと思う。しっかり勉強すればいろいろな解き方も理解できるし、教員の資質向上にもつながるのではないか。
- ・小学校の英語教科化にしても、教員の負担になり、子どもの負担につながる。宿題も多いし多くを詰め込みすぎて追い込むことがないようにしてもらいたい。

### <文化施設>

- ・文化施設が地元が開かれたものになっていない。他県では外に出向く出前講座があるが、若狭歴史博物館では来館させて説明するだけであり、説明文なども子ども向けの記載になっていない。

# 「福井の教育」向上に関する地区別意見交換会

## 福井地区 概要

日 時：平成 27 年 1 月 14 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分

場 所：県庁 2 階 中会議室

出席者：PTA 関係者 4 名、公民館関係 3 名、商工会議所 3 名等 合計 15 名参加

### ◆ 主な意見

#### <幼児教育>

- ・例え三世代同居していても、昔のように祖父母が孫の面倒を見る機会は減っている。その影響で国語力も低下しているのではないか。
- ・家庭教育は大事である。問題のある子どもは親にも問題があることが多い。親だけでなく、祖父母も教育しなければならない。子どもはこうでないといけないという思い込みもある。
- ・若い人のチャレンジする姿勢を育てることが重要である。
- ・子どもは親の背中を見て育つし、親が正しい生活をするのが子どもの成長にもつながる。

#### <小・中学校教育>

- ・子どもにいろいろなことを与えるだけでなく、土曜学習等を利用して、自主的な体験など自分の思いを発表する場などが必要ではないか。
- ・小規模校の場合、いったんいじめなどが生じると、関係が長期間固定化することに配慮してもらいたい。
- ・英語といっても、話す中身がなければ語学以前の問題である。日本の宗教や自分自身のことを話せるようにしてもらいたい。

#### <英語教育>

- ・8 年間勉強しても英語を話すことができない。教育方法にも問題があると思うので、コミュニケーションを取る技術を付けられるようにしてもらいたい。

#### <キャリア教育>

- ・商工会議所で独自の活動も行っているが、更にどのような形で学校教育と連携できるか考えたい。
- ・小学生が親などの職業について聞く授業があるが、それを展開して職業観につなげて欲しい。ただ聞いて終わりではもったいない。
- ・普通科高校の生徒は就職後のイメージを持ちにくい。

### <職業教育>

- ・職業系高校の学科と進路が合わないことがある。職業系高校を出た人が福井に残って職を継いでくれるように大切にしてほしい。農業がやりたいから農業系学科に進むような人を育てられるといい。

### <生活指導>

- ・スマホは、やはりこれからは使っていく必要がある。高校に入る前からネットワーク上でグループができている状態であり、危険なところがあるのではないか。危ない使い方をしないよう周知してほしい。

### <ふるさと教育>

- ・ふるさと教員は都会の大企業が多いが、福井の中小企業でも世界を相手に仕事をしている人もいるし、地元の中小企業の良さを伝えることも考えて欲しい。
- ・各地区で働いている先輩の仕事を見た方が、ふるさとを大切に思う心が育つのではないかな。

### <地域との連携>

- ・PTAで読み聞かせなどを行おうとしても、保護者の集まりが悪い。PTAの行事に婦人会にも協力を得たところ、高齢者の参加が増えて見守りの効果が上がったと感謝している。
- ・地域活動にしても、親が楽しんでいるかどうかが大変である。親が楽しむ姿勢が子どもの楽しみにつながる。

### <特別支援教育>

- ・インクルーシブ教育は周囲の生徒の教育にはなるが、特別支援学校にはいろいろな活動の場があり、本人のためなら特別支援学校を選択するという考えもある。

### <スポーツ振興>

- ・学生と企業をマッチングするのもいいが、商工会議所などと連携して選手の受け入れ体制をしっかりと整えて欲しい。

### <教員の指導力向上>

- ・教員の余裕があれば、授業前に軽いテストをするなど、予習を促すような取組みもあるのではないかな。自然と新聞を読んだり、親に聞いたりするようになる。
- ・家庭教育と学校・塾のバランスが取れていない。昔なら放課後でも教員が対応していたことが今は忙しくて対応できない。
- ・授業だけでなく部活指導や保護者対応などに追われる。教員のメンタル面についてもケアしてもらいたい。自分に余裕がないと子どもに対する指導も行き届かない。

### <社会教育>

- ・公民館の活動に若者が参加してくれない。学校教育でも子どもに働きかけて、若い人の力が地区に反映されるようにしてほしい。

# 「福井の教育」向上に関する地区別意見交換会

## 坂井地区 概要

日 時：平成 27 年 1 月 16 日（金）19 時 00 分～20 時 30 分

場 所：坂井市役所第 2 別館 2 階会議室

出席者：PTA 関係者 7 名、商工会関係 2 名、公民館関係 1 名等 合計 13 名参加

### ◆ 主な意見

#### <幼児教育>

- ・日本の子どもは自分に自信を持っている割合が低い。親が子どもたちのほめ方、接し方を知らない。
- ・教育方針を決めていない親が多い。失敗させないようにするのではなく、失敗しても前に進むことを学ばせる必要がある。これからは親が考えないといけない。
- ・子育て支援センターでも、4 割は他の親がいない時間帯を希望している状況である。
- ・母親の友人を増やして信頼できる相手が増えると、落ち着いた子育てにもつながる。
- ・家庭教育が何より重要だと思う。家庭で子どものいい部分を萎ませることもあるし、小学校から地域に戻ってくるような教育もある。親が方針を決めないといけない。
- ・自分は親の背中に筋が通っているのが見えた。今の親が子どもに信念を見せられるか。
- ・道徳関係の意識が低下しているのではないか。家庭のしつけと思うが、ゴミのポイ捨てや空き缶が山ほどある。親がどう考えるか。

#### <小・中学校教育>

- ・学力・体力を伸ばすことは当然大事だが、最後に大事なものはハートではないか。地域の人間は志のある人間を育てることを考えたい。
- ・親が子どもの面倒を見るのは大変。夏休み短縮を望む意見もあるが、子どもを家庭や地域に戻すことが重要だと思う。

#### <キャリア教育>

- ・大企業を福井に誘致するのもいいが、全国に誇れる産業がすでにあり、中学校や高校の子ども達に伝えていきたい。東京と張り合う必要はない。
- ・職場見学に来る学生に積極性がなく、質問が一つもないことがある。いろいろな会社や業種を見ることで、職業観の形成につながるし、社会の一員となることができる。

#### <職業教育>

- ・会社の大きさより仕事の中身が大事である。職業教育では実際に使うスキルを伸ばしてほしい。田舎で手に職を持って生きるのもいいと思う。

- ・農業系の高校を出ても農業に就職しないのが残念である。せっかく専門課程を学んでいるし、活かすことができるといい。
- ・企業が欲しいのは、語学や資格ではなく、常識や積極性、コミュニケーション能力を持った人材である。
- ・就職者の離職率はどうか。自分が希望した会社に就職できているかが問題である。企業選びを間違わないよう、見学や勉強会をやるべきである。

### <高校再編>

- ・坂井高校の子どもは服装も含めて変わった。以前とは見違えたと思うし期待している。

### <ふるさと教育>

- ・長野の公民館と交流すると「信濃の国」の歌を全員が歌える。福井県にも全員が歌えるものがあると誇りが生まれるのではないか。県民歌を歌いやすくアレンジしたとのことだが、福井国体を控え、義務教育の中で教えたりするといいと思う。
- ・福井にいいところがあるから残るといってもない。優秀な人は外に活躍の場を求めることになると思うし、福井にいかにか子どもを残すかを考えると難しい。
- ・学力・体力を伸ばすことは当然大事だが、最後に大事なものはハートではないか。精神的なところを伸ばすよう考えて、福井に残る残らないは、問題ではない。
- ・高橋愛さんや五木ひろしさんのように、全国で活躍する福井県出身者を育てられるといい。自分の子どもにも福井に戻ってもらうことは期待していない。

### <地域との連携>

- ・地域の祭りに部活動の影響で高校生が参加できない。ふるさとを愛する心を育てることの方が大事ではないか。地域を重視していない。
- ・学校では地域の行事にどんどん出るように言っている。出ないのは地域と保護者の関係であり、学校が止めているわけではない。

## 第 1 回「福井の教育」向上会議 議事概要

- 1 日 時：平成 26 年 11 月 26 日（水）10：00～12：00
- 2 場 所：福井県庁 7 階 特別会議室
- 3 出席者：下谷座長、石川委員、津田委員、徳本委員、中室委員、永瀬委員、長谷委員、  
羽田野委員、松木委員、吉田委員  
福井県教育委員会：吉井委員長、西野委員、林教育長

## 4 結果まとめ

- (1) あいさつ（吉井委員長）  
座長選出（福井県立大学学長 下谷委員）
- (2) 「福井の教育」向上会議の設置について（教育振興課長）
- (3) 協 議
  - ① 福井県教育振興計画の進捗状況について
  - ② 「福井の教育」の現状と今後の課題について

## ◆ 意見交換

## ＜秋田委員＞（ビデオメッセージ）

- ・結果として福井の学力・体力が高いのは家庭と学校が幼児期からつながって誠実な取り組みを続けているためである。
- ・乳幼児期のつながりは一生のコミュニティであり、それを活かしていくとともに、高校や大学で外に出た人がどのように福井に還元するかという職業と学校教育のつながりも考えていくことが必要である。
- ・地域のつながりは、弱くなりつつあるし、人がつながって支え合う環境をどのように残していくか。非認知能力、協働する力を伸ばすことが重要である。

## ＜禿委員＞（代読）

- ・つながることは、自分が生かされているということに気づいてはじめて可能となる。
- ・幼児教育の段階から大学に至るまで、「自分が生かされているということ」に気付くための教育をどのように実践していけるかが重要である。

## ＜石川委員＞

- ・保護者の立場で見ても、学校の教員は頑張っている。熱心な指導もしてくれるし、地域とも積極的に関わり、特産である越前和紙の事業者と教員・子どもが一緒に学ぶ紙すきウィークなども行っている。
- ・今後も PTA、教員と子どもがスクラムを組んで対応することが大事である。

### <津田委員>

- ・5歳児までにどんな力を身に付けるかが先に響いていく。保育所・幼稚園の段階でコミュニケーション能力は培われるし、いじめなども早い段階で始まる。
- ・5歳までの子育てで生きていくための知恵を付けることが重要である。何が変わるかという具体的な数字は難しいが、子どもが自信や発見を経験することが必要である。
- ・5歳児ができないことは大学生になってもできない。幼児教育では長く接する保育士の力が重要である。
- ・教員OBや保育士OBを活用して、経験を若手教員や保育士に伝えることも大事である。担任を支えるような形でもいい。

### <徳本委員>

- ・数字だけを前面に出して教育を議論することには危惧がある。何かをしたから数字で何かが変わる、というだけでは表せないことがある。
- ・へこたれない根性や柔軟性、創造性など、数字には示すことができなくても大事なことはある。
- ・地域での体験によりコーディネート力を身に付けることが個人の可能性を広げるし、見えないところを大切にした教育を期待したい。

### <中室委員>

- ・5歳までの教育が重要であるということは100%正しい。経済学的な収益率は、高校や大学に比べると幼児教育の方が圧倒的に高い。機会費用の閾値は小学校低学年にある。
- ・IQなど数値化できる認知能力は遺伝もあるし、10歳までで伸びなくなる。一方で、自制心などの非認知能力は20代前半まで伸びる。教育で伸ばすならこの部分である。
- ・小中学校でも、補習や習熟度別授業に比べると少人数教育の費用対効果は悪い。これ以上の少人数教育は慎重に考えたほうがいい。費用対効果が高いのは放課後学習である。
- ・幼児教育も家庭訪問を増やすなど家庭を巻き込むことが重要である。スマホやゲームを禁止しても勉強時間が増えるわけではない。自分で机に向かわせることが必要である。
- ・限られた教育予算の中で、選択と集中を考える必要がある。

### <永瀬委員>

- ・教育では多様性・外の世界との交流が大事である。
- ・手取り足取り教える教育では、平均点は上がっても、自立して頑張る能力が低くなることもあり、居心地のいい世界だけには成長が止まる。
- ・思い切って手取り足取り教える教育をやめることでかえって自主性を育てることもある。



のではないか。

### <長谷委員>

- ・学力・体力は高くても、福井の子どもが文化の担い手になりうるか気がかり。  
子どもの文化は子どもが自ら生み出ることが大事。創り出す力を育てるためにも自然体験や生活の中での実体験を増やすこと。
- ・幼児教育についても、小学校につなぐだけでなく、遊ぶ体験を積むことを考えたい。
- ・美術教員も非常勤が増えており、部活動の指導ができない。OBの活用は重要である。
- ・文化財も保存するだけでなく、活用することが重要。地域の伝統芸能などに保護者も巻き込んで参加させることで家庭教育にもつながる。
- ・少子化は進むし、高校再編もどう進めていくか。多様性、特色ある高校をどのようにつくるかが課題である。
- ・中高連携についても、より効果的に一貫性を高めること、教科主任を中心に専門性を高めてほしい。

### <羽田野委員>

- ・形には見えにくいですが、社会教育と地域の力が高い学力・体力を支えている。
- ・公民館などでも地域の学習機会をつくっているし、地域のつながりを残していく仕組みを考えてはどうか。
- ・変化を嫌う、自分で行動しない姿勢を変えていく希望学の観点と、決して福井の女性の社会参加が進んでいるとは言えないので、女性の力を活かすことについても検討が必要である。また、県外者・外国人などよそ者の立場を考えることも大事である。

### <松木委員>

- ・福井の教員コミュニティの学び合う仕組みは充実している。システムを維持するとともに、早い時期から将来の管理職養成の意識が必要である。
- ・福井の教育・授業研究を世界に発信するとともに、海外からの研修の受け入れなど、福井の学校自体のグローバル化を考えてはどうか。
- ・発達障害への対応などは費用対効果だけでは議論できない。福井の特別支援教育センターなどは10数名の教員がしっかりしたリストを作り対応を授業に反映させている。
- ・学校・学級の規模が小さくなると、小中学校では9年間固定的な関係が続くことになる。その中では異なる年齢層での共同学習などで多様性を担保してはどうか。
- ・学力調査の結果にとらわれる必要はない。協働など実践へのつくり出す力を学ぶことが大事である。

### <吉田委員>

- ・幼稚園で英語を勉強していても小学校低学年で途切れてしまう。小学校低学年から継続した英語教育を考えてほしい。英語で算数を教える塾もあると聞いており、小さいうちから教科分けをするのではなく、教科の柔軟性を持たせてはどうか。
- ・文化体験でも教員の事前の教え方によって児童の反応にばらつきがある。せっかくの機会であるし、芸術教育の意義をしっかりと伝えないと効果が出ない。
- ・高校生のインターンでは優秀な高校ほど生徒の意識が低いという話を聞く。
- ・3世代同居が福井のつながりを生む特長なら、3世代同居を支援するなど、社会のつながりを残す施策を具体的に考えてはどうか。

### <下谷座長>

- ・子どもの数が減る中では、教育でも政策的に仕掛けていくことが必要である。費用対効果で測ることもあり得るし、費用対効果による判断がなじまない部分もある。3世代同居が例として挙げたが、人為的な仕掛けで多様性を担保してはどうか。

以 上